

## 詩編 第51編 4節

「私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告される時、あなたは正しく、さばかれる時、あなたはきよくあられます。」

罪を犯したとき、誰もが真っ先に悪を行った自分に目を向けるのではないか。犯した過ちに目を向けるのではないか。取返しのつかない自分の行いに目を向けるのではないか。悪事を行った自分の手に、悪事に走った自分の足に、悪事を企んだ自分の心に目を向けるのではないか。そこに渦巻く、罪責感であり、悪の報酬が襲ってくることに怯える自分がいるのではないか。悪事を働いたのも自分、罪責感に陥るのも自分、悪事で怯えるのも自分、すべてが自分向きである。

しかし、ここでは言う。私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。悪事を働いた者が、もはや自分に目を向けることはない。あなたと呼ばわるお方にだけ向く。そこでしか、真に罪深い自分と向き合うことができない。そこでこそ、罪の本性を見せつけられる。

見せつけられたところで、あなたの正しさ、あなたのさばきのきよさを示される。あなたの御前で罪が露わにされ、あなたの御前で義のさばきがあり。ここに罪人の救いがある。あなたと呼ぶ者の。

2024年5月21日